

学校保健

葛山 友紀

共同研究者 森 慶恵 (金沢大学)

1. はじめに

平成 29 年度に告示された学習指導要領解説では、改訂の基本的な考え方として「総合的な学習の時間においては、探究的な学習の過程を一層重視し、各教科等で育成する資質・能力を相互に関連付け、実社会・実生活において活用できるものとするとともに、各教科等を越えた学習の基盤となる資質・能力を育成する」と明記されている。また目標 (3) には「探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う」と示されており、我が国が探究的な学習を通して子どもたちに生きる力を身につけさせ、主体的・協働的に社会を創造できる人材の育成を求めていることが分かる。

探究的な学習とは、物事の本質を探ってみ極めようとする一連の知的営みのことであり、問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく¹⁾。先述にもあるが、この活動を行う上でポイントとなるのが「主体的・協働的」という言葉である。生徒が社会に出たときに直面する様々な問題のほとんどは、一人の力だけでは解決できないもの、協働することでよりよく解決できるものである。その際に問題を自分のこととして受け止め取り組もうとする主体性がなければ協働は成り立たない¹⁾。

主体性・協働性を重視した活動は、これまでも各教科等で積極的に取り入れられている。例えば理科では実験を行う際は班となり、体育科ではバスケットボールやバレーボールを行う際はチームとなる。しかし、この班やチームが単なる人の集合体となっている場合がある。生徒同士の関わりが見られなかったり、沈黙している生徒がいたり、また一部の生徒のみで活動が進められ活動に参加していない生徒が見られたりするなど、主体的・協働的な活動には結びついていないことが往々にしてある。その原因として、心理的要因が挙げられる。沈黙している生徒の心情には、「無知だと思われる不安」「無能だと思われる不安」「邪魔をしていると思われる不安」「ネガティブだと思われる不安」の4つ不安が存在している可能性がある²⁾。

近年「心理的安全性」という言葉が注目されるようになってきた。心理的安全性とは、組織の中で自分の考えや気持ちを誰にでも安心して発言できる状態のことをいう。組織行動の研究者である Amy C. Edmondson が 1999 年に提唱した概念であり、「率直に発言したり懸念や疑問やアイデアを話したりすることによる対人関係のリスクを安心して取れる環境」と定義している³⁾。Google 社による研究プロジェクト「Project Aristotle」では、効果的なチーム条件の最重要因子に心理的安全性を挙げており⁴⁾、その研究結果はビジネス業界だけでなく、様々な分野で注目を集めている。また亀山らの研究によると、社会的地位が低いと自己認知している生徒ほど、観察・実験グループに対する心理的安全性が低くなりやすく、そのために理科授業において批判的議論を行うことが難しくなりやすい上に、対話的な学びが要求される観察・実験場面でストレス反応が高まりやすいことが示されている⁵⁾。これらの実態から、協働的な活動を充実させ、探究的な活動を発展させるためには、その基盤として心理的安全性が必要であることが分かる。

学校保健には、現代的健康課題への適切な対応が求められており、その中にはメンタルヘルスに関するものが含まれている。そこで本研究では、主体的・協働的な探究活動の基盤づくりとして、心理的安全性を高めるための教育内容を検討することとした。

2. 探究的な活動（創造デザイン科）と教科等との関わりについて

(1) 探究的な活動に生かされると考えられる資質・能力

本校の「創造デザイン科」は、総合的な学習の時間を創造性の育成に特化し、教科化したものである。デザイン思考のプロセスに従って、グループごとに探究的な活動が行われている。この授業においても主体性・協働性が重視されており、心理的安全性が活動の基盤となる。

心理的安全性は、同じ課題に取り組むユニットである対象集団（メンバー）の状態に依存する変数である²⁾。そのため本研究では、創造デザイン科の授業の中で、探究的な活動を共有する集団に対する心理的安全性を基準に成果を測る。心理的安全性尺度は、Edmondsonによる質問項目を亀山らが選定・修正したもの⁵⁾を基準とし、さらに創造デザイン科に適合するよう修正を施したものを採用することとした（表1）。

表1 創造デザイン科における心理的安全性尺度

- | |
|---|
| <ol style="list-style-type: none">1. 同じグループのメンバーは、私が他のメンバーと違う意見を言ったときでも受け入れてくれる2. 活動内容でわからないことがあれば、同じグループのメンバーに安心して相談できる3. 私のグループでは、私の個性が尊重され、それが活かされていると感じる4. 私のグループでは、もし私が何か失敗しても責めることはしない |
|---|

心理的安全性尺度の項目には「受け入れ」「安心」「個性の尊重」「失敗を責めない」などの言葉が見受けられる。すなわち心理的安全性を高めるためには、他者理解や受容など多様性を受け入れる態度が必要であることが推測される。

平成29年3月文部科学省「現代的健康課題を抱える子供たちへの支援」では、健康な生活を送るために、児童生徒等に必要な力として「心身の健康に関する知識・技能」「自己有用感・自己肯定感（自尊感情）」「自ら意思決定・行動選択する力」「他者と関わる力」を挙げている⁶⁾。上記の心理的安全性尺度の項目から、心理的安全性を高める心の教育は、特に「他者と関わる力」の育成につながると考えられる。また「他者と関わる力」の育成が、自他尊重の意識や他者理解をさらに深め、心理的安全性をより高めることができる要因となることが想像される。

（2）探究的な活動に活かされると考えられる資質・能力を育成するための手立て

他者との関わり（思いやり・信頼・友情等）については、道徳や学校活動、学校行事など、学習や体験を通して学んでいる。しかし協働的な探究活動の基盤として求められる心理的安全性を高めるための具体的な手立てや方法についての知識・技能を育成する教育は十分とは言えず、生徒は心理的安全性の必要性について意識できていないのが現状である。未来を担う子どもたちが社会を牽引していくためには、心理的安全性の概念や高めるための要点を知り、協働的な活動の場面で意識し活用できる資質・能力を身に付ける必要がある。

心理的安全性を確立するリーダーのツールキットとして「土台づくり」「参加を求める」「生産的に対応する」の3つのカテゴリーが示されている（表2）³⁾。本研究では、他者理解・受容と特に関係が深いと考える「仕事をフレーミングする」「探究的な質問をする」「感謝を表す」の3点について取り上げ指導を行う。

フレームとは思い込みのことである。人は無意識のうちにフレーミングをしており、現在の状況における考え方や感じ方には、個々の過去の経験が影響をもたらしている。Edmondsonによると「仕事をフレーミングする」とは、「仕事の成功とは不確実なものであり、失敗するのは当たり前、また、チーム内の業務は相互に依存しているため、できるだけ率直に発言し合うことが大切である」という共通認識を持ってもらうことである³⁾。自己の考えに固執せず、目的のためには多様な角度からの意見や忖度のない意見を大切にすることが大切であることを伝えている。

「探究的な質問をする」とは、単にイエスかノーで答えを求めるような質問ではない。「他にどんなアイデアが考えられるだろうか」「誰か見解の違う人はいないか」など、状況をより深く理解したり選択肢を広げたりするための問いであったり、「なぜそのように考えるようになったのか」「例を挙げて欲しい」といった理解を深めるための問いのことである³⁾。

表2 心理的安全性を確立するためのリーダーのツールキット

土台をつくる	参加を求める	生産的に対応する
仕事をフレーミングする ・失敗、不確実性、相互依存を当たり前とし、率直な発言の必要性を明確にする 目的を際立たせる ・危機にさらされているものと、それがなぜ、誰にとって重要であるかを意識する	状況的謙虚さを示す ・完璧でないことを認める 探究的な質問をする ・よい質問をする ・集中して「聴く」手本を示す 仕組みとプロセスを確立する ・意見を募るためのフォーラムを設ける ・ディスカッションのためのガイドラインを示す	感謝を表す ・耳を傾ける ・受け入れ、感謝する 失敗を恥ずかしいものではないとする ・未来に目を向ける ・支援を申し出る ・次のステップについて話し合い、熟慮し、ブレインストーミングする 明らかな違反に制裁措置をとる
期待と意味の共有	発言が歓迎されるという確信	絶え間ない学習への方向づけ

「感謝を表す」ということは、他者の意見を傾聴・受容し、その発言の質を問わず、発言したことに対し敬意を示すことを表しており、生産的に対応するための一つの方法である。「探究的な質問する」や「感謝を表す」ことは、協働的な活動において意見を引き出すための必要なコミュニケーション方法である。

以上より、本研究では中学2年生を対象に、「他者の意見の必要性を理解する指導」と「他者の意見を引き出すコミュニケーションスキルを身につける指導」を実践する。

3. 参考文献

- 1) 文部科学省：中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編
- 2) エイミー・C・エドモンドソン 訳野津智子：チームが機能するとはどういうことか，英治出版（2014）
- 3) エイミー・C・エドモンドソン 訳野津智子：恐れのない組織「心理的安全性」学習・イノベーション・成長をもたらす，英治出版（2021）
- 4) Google re:Work：「効果的なチームとは何か」を知る
<https://rework.withgoogle.com/jp/guides/understanding-team-effectiveness/#introduction>
- 5) 亀田晃和・原田勇希・草場実：学級内の社会的地位と実験グループに対する心理的安全性が理科授業における批判的議論とストレス反応に及ぼす影響，理科教育学研究 Vol. 62 No. 1（2021）
- 6) 文部科学省：現代的健康課題を抱える子供たちへの支援～養護教諭の役割を中心として～（2019）

2年 単元名「心理的安全性を高めよう」 単元計画（2時間）

次	時	学習内容・ねらい（■）主な活動等（丸数字）	評価規準（○）3観点【 】指導上の留意点（・）
1	1	<p>■心理的安全性を高める方法を理解する。</p> <p>①事例を通して、心理的安全性を低くする思考や発言を考える。</p> <p>②認知バイアス（思い込み）について知る。</p> <p>③人によって考え方・感じ方が違う原因を知る。</p>	<p>○心理的安全性を高めるための方法を理解している。【知】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知バイアスは、他者の意見を受容しにくくする原因となっていることを押さえる。 ・考え方・感じ方は、人それぞれの経験が土台となっているため、違って当たり前だという意識を持たせる。
	2	<p>■心理的安全性を高めるコミュニケーションスキルを身につける。</p> <p>①事例を通して、心理的安全性を高めるコミュニケーションのポイントを知る。</p> <p>②心理的安全性が高い話し合いのストーリーを考える。</p> <p>③グループごとにストーリーの内容を演じる。</p>	<p>○心理的安全性の高い話し合いのストーリーをつくることができている。【思】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションのポイントを押さえるよう伝える。 ・事例を参考にしてもよいことを伝える。 <p>○心理的安全性の高いコミュニケーションをとろうとしている。【態】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動画を撮らせ、客観的に確認できるようにする。